

イ 後継者がいる養殖種類別経営体数

養殖漁業経営体の個人経営体 1,868 経営体のうち、自家漁業の後継者がいる経営体は 396 経営体で、個人経営体に占める割合は 21.2%と 5 年前に比べ 0.2 ポイント低くなっている。

販売金額 1 位の養殖種類別にみると、食用の海水魚種、食用のうなぎ、食用のにじまずで後継者がいる経営体の割合が高く、それぞれ 70.6%、46.4%、31.9%となっている。

表 27 後継者がいる養殖種類別経営体数

区 分	平成25年			30		
	後継者あり	後継者ありの割合		後継者あり	後継者ありの割合	
計	経営体 2,304	経営体 494	% 21.4	経営体 1,868	経営体 396	% 21.2
食用						
にじまず	145	43	29.7	116	37	31.9
その他のます類	359	64	17.8	279	47	16.8
あゆ	62	19	30.6	51	12	23.5
こい	108	25	23.1	75	23	30.7
ふなぎ	130	17	13.1	99	17	17.2
うなぎ	231	107	46.3	194	90	46.4
すっぽん	35	2	5.7	26	3	11.5
海水魚種	18	12	66.7	17	12	70.6
その他	330	73	22.1	277	43	15.5
種苗用						
ます類	17	3	17.6	14	3	21.4
あゆ	6	2	33.3	2	-	-
こい	14	2	14.3	6	1	16.7
その他	40	9	22.5	4	-	-
観賞用						
錦ごい	497	66	13.3	458	63	13.8
その他の	311	50	16.1	249	44	17.7
真珠	1	-	-	1	1	100.0

3 流通加工業

(1) 魚市場

〔 魚市場とは、過去 1 年間に漁船により直接水揚げがあった市場及び直接水揚げがなくても陸送により生産地から搬入を受けて、第 1 次段階の取引を行ったものをいう。 〕

全国の魚市場数（平成 31 年 1 月 1 日現在）は 803 市場で、5 年前に比べ 56 市場（6.5%）減少した。

また、水産物の取扱数量は 504 万 t、取扱金額は 2 兆 6,347 億円となっている。

表 28 魚市場数、年間取扱数量及び金額

区 分	単位	平成25年	30	対前回 増減率 (30/25)
魚市場数	市場	859	803	△ 6.5
年間取扱数量	万 t	587	504	△ 14.1
年間取扱金額	億円	27,626	26,347	△ 4.6

(2) 冷凍・冷蔵工場

〔 冷凍・冷蔵工場とは、陸上において 10 馬力以上の冷凍・冷蔵施設を有し、過去 1 年間に水産物の凍結又は低温保管を行った事業所をいう。 〕

全国の冷凍・冷蔵工場数（平成 31 年 1 月 1 日現在）は 4,904 工場、従業者数は 14 万 1,546 人で、5 年前に比べそれぞれ 453 工場（8.5%）、9,013 人（6.0%）減少した。

また、従業者のうち外国人は 1 万 4,016 人で、5 年前に比べ 3,862 人（38.0%）増加した。

表 29 冷凍・冷蔵工場数及び従業者数

区 分	単位	平成25年	30	構 成 比		対前回 増減率 (30/25)
				平成25年	30	
冷凍・冷蔵工場数	工場	5,357	4,904	-	-	△ 8.5
従業者数	人	150,559	141,546	100.0	100.0	△ 6.0
男	〃	68,916	67,148	45.8	47.4	△ 2.6
女	〃	81,643	74,398	54.2	52.6	△ 8.9
うち外国人	〃	10,154	14,016	6.7	9.9	38.0

(3) 水産加工場

〔水産加工場とは、販売を目的として過去1年間に水産動植物を原料として加工製造を行った事業所をいう。〕

全国の水産加工場（平成31年1月1日現在）は7,289工場で、5年前に比べ1,225工場（14.4%）減少した。

これを営んだ加工種類別にみると、その他の食用加工品のその他（焼き干し品、食用魚粉等）が1,790工場と最も多く、次いで塩干品が1,645工場、生鮮冷凍水産物が1,400工場となっており、5年前に比べそれぞれ856工場（32.4%）、277工場（14.4%）、180工場（11.4%）減少した。

また、油脂が27工場、こんぶつくだ煮が312工場、くん製品が215工場で、5年前に比べてそれぞれ4工場（17.4%）、26工場（9.1%）、9工場（4.4%）増加した。

表30 営んだ加工種類別水産加工場数（複数回答）

区 分	平成25年	30	対前回 増減率 (30/25)
計（実数）	工場 8,514	工場 7,289	% △ 14.4
生鮮冷凍水産物詰り	1,580	1,400	△ 11.4
焼・味付の天	155	161	3.9
寒・味の天	355	312	△ 12.1
油ね	42	30	△ 28.6
ね	23	27	17.4
かまぼこ類	1,413	1,130	△ 20.0
魚肉ハム・ソーセージ類	34	26	△ 23.5
冷凍食品	883	919	4.1
素干し品	742	550	△ 25.9
塩干し品	1,922	1,645	△ 14.4
煮干し品	1,280	1,049	△ 18.0
塩蔵品	842	770	△ 8.6
くん製	206	215	4.4
節製	641	528	△ 17.6
その他の食用加工品			
い	288	246	△ 14.6
水産物漬物	558	574	2.9
こんぶつくだ煮	286	312	9.1
乾燥・焙焼・揚げ加工品（いか製品）	201	187	△ 7.0
その他（焼き干し品、食用魚粉等）	2,646	1,790	△ 32.4
飼肥料	141	114	△ 19.1

加工種類別生産量をみると、生鮮冷凍水産物が139万7,203tと最も多く、次いでかまぼこ類が44万8,861t、飼肥料が40万1,354tとなっており、5年前に比べ生鮮冷凍水産物は1万4,599t（1.1%）、飼肥料は9,715t（2.5%）増加したものの、かまぼこ類は1万8,454t（3.9%）減少した。

表31 加工種類別生産量

区 分	単位	平成25年	30	対前回 増減率 (30/25)
生鮮冷凍水産物詰り	t	1,382,604	1,397,203	% 1.1
焼・味付の天	千枚	125,630	104,258	△ 17.0
寒・味の天	t	7,003,728	6,558,385	△ 6.4
油ね	t	565	751	32.9
ね	t	27,144	50,125	84.7
かまぼこ類	t	467,315	448,861	△ 3.9
魚肉ハム・ソーセージ類	t	61,123	60,709	△ 0.7
冷凍食品	t	256,935	255,888	△ 0.4
素干し品	t	13,466	7,051	△ 47.6
塩干し品	t	166,714	139,569	△ 16.3
煮干し品	t	64,316	59,031	△ 8.2
塩蔵品	t	197,845	181,630	△ 8.2
くん製	t	8,178	6,843	△ 16.3
節製	t	90,623	79,595	△ 12.2
その他の食用加工品				
い	t	19,082	12,055	△ 36.8
水産物漬物	t	52,182	53,808	3.1
こんぶつくだ煮	t	37,359	31,729	△ 15.1
乾燥・焙焼・揚げ加工品（いか製品）	t	29,250	18,873	△ 35.5
その他（焼き干し品、食用魚粉等）	t	251,535	231,163	△ 8.1
飼肥料	t	391,639	401,354	2.5

水産加工場の従業者は17万1,354人で、5年前に比べ1万6,881人（9.0%）減少した。

また、従業者のうち外国人は1万7,336人で、5年前に比べ3,878人（28.8%）増加した。

表32 水産加工場における従業者数

区 分	平成25年	30	構 成 比		対前回 増減率 (30/25)
			平成25年	30	
計	人 188,235	人 171,354	% 100.0	% 100.0	% △ 9.0
男	72,057	68,357	38.3	39.9	△ 5.1
女	116,178	102,997	61.7	60.1	△ 11.3
うち外国人	13,458	17,336	7.1	10.1	28.8